

令和3年度 さいたま市立文蔵小学校 学校関係者評価書

さいたま市立文蔵小学校

学校関係者評価委員長 押田 龍彦



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 13人

(2) 実施回数 2回(内1回は書面開催)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- 今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き、例年のような教育活動を展開できず、子ども、保護者、地域、学校のいずれもが先の見えない不安を抱えながらの教育活動となったと思う。年末から3学期にかけては全国的に感染症の感染者数が急増し、文蔵小学校でも学級閉鎖が起きたクラスもあったが、それでも教育を止めることなく子どもたちが毎日元気に登校できたことは、日々の感染防止対策の徹底と意識の継続があるからであり、「学校の新しい生活様式」に則った取組の成果であると考えます。
- あいさつの励行については、学校評価の設問「進んであいさつができる」では、教職員の肯定的回答が89%、保護者は94%、児童は85%と、昨年に比べ大きく向上してはいるが、地域として感じる感覚はまだそこまでの域に達していないのではないかと思います。引き続き子どものみならず保護者へも啓発し、「あいさつのできる学校」にしてほしいと思う。
- 学校評価の設問「先生に相談できる」への肯定的回答が、児童は82%となっているが、保護者の回答が73%と、低い数値になっている。コロナ禍で行事等が縮小、中止となり、保護者が学校へ行く機会や教職員と直接顔を合わせる機会が減ってしまったことや、ハイブリット授業やオンライン授業の対応など、学校からの情報提供や対応について、保護者の不安を解消できなかったことも要因になったのではないかと考える。これは、学校側の学びを止めないという思いや、教職員の日々の努力を考えると残念に思う。学校から相談できることについて保護者へ分かりやすく発信していくことが望まれる。
- コミュニティ・スクールに関する評価項目については、本年度、文蔵小学校50周年記念行事に係る様々な取組を通して、保護者、地域とも関わりが深まり、円滑な関係が構築できたと思う。保護者の肯定的な回答が95%を超えていることからその成果が伺える。令和4年度からの取組についてもこの関係が継続できるようにしてほしい。
- 学校評価の設問「学校は、お子さんの健康や安全について配慮している」への保護者の肯定的回答が94%に達している。日々の事故防止に努めるとともに、学校が子どもの怪我や病気に対し、教職員と保護者が細目に連絡を取り合ったり、教職員が子どもを自宅へ送り届けたりすることを通して、学校と保護者が信頼関係を築いていることが伝わってくる。
- 「いじめ」の認知について、解消としたことで終わりにせず、継続して見守ることは勿論、見逃している事案はないかなど、常にアンテナを高くし、早期発見・早期対応を引き続きお願いしたい。また、長期欠席児童については家庭的な面や本人に係ることなど、様々な要因や背景があるようだ。学校も子どもたち一人ひとりに対し、とても丁寧に対応していることが分かる。関係機関との連携など、組織的に対応していることから、子ども一人ひとりの特性に応じたかわり方や保護者への支援が効果的に作用していると考えます。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- あいさつの励行については、「あかるく」「いつも」「さきに」「つづけて」を柱に、相手意識をもって気持ちのよいあいさつができるよう、地域、PTAと協力した朝の立哨、児童会によるあいさつ運動、毎日の指導等を通して、子どもたちが興味・関心・意欲をもって取り組めるよう、全職員で粘り強く行っていく。
- 「先生に相談できる」環境づくりの改善については、分散型の授業参観や授業ボランティアの依頼、教育相談日や個人面談等を通して保護者との関わりを深めるとともに、相談できることについて、学校HP等へ掲載するなど、発信方法を工夫改善していく。
- 「学校は、お子さんの健康や安全について配慮している」については、けがの対応は勿論、学校環境を起因とする事故防止にも積極的に努めていく。毎月の安全点検や、日々の目視点検による破損、修繕箇所の発見と対応、関係機関との連携した早期改善など、子どもの事故、けがの防止に向け、より一層全教職員で取り組み、安心・安全な学校づくりに努めていく。

さいたま市立文蔵小学校長

佐野 公子

